

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

日本のIRをまとめて検索！—JAIROのご紹介

杉田いづみ

●はじめに

日本の研究機関による機関リポジトリ (IR) は、二〇〇八年二月時点で九〇近くが公開されており、数の上では世界で第四位に位置している。これらIRに収録されている本文コンテンツは、それぞれのIRの検索画面はもちろん、Google等の検索エンジンや、RePEc (経済学分野の

プレプリントサーバ)等の分野ポータルから検索を可能にするなど、各IRが自機関のコンテンツのビジュアル向上を向上させるため、さまざまな工夫が行われている。

国立情報学研究所 (NII) は、ビジュアル向上の一方策として、IRのメタデータ (書誌情報) を収集し、日本のIRのコンテンツをまとめて検索できるサービス「JAIRO (ジャイロ)」を学術機関リ

ポジトリポータル」を二〇〇八年一〇月に試験公開した (図1)。二〇〇八年二月時点のコンテンツ数は、八六機関、約五七万件である (<http://jairo.nii.ac.jp>)。

●何が検索できるのか

JAIROでは、学術雑誌論文 (全コンテンツ数の約三〇%)、紀要論文 (約四〇%)のほか、学位論文や科学研究費補助金の成果報告書、会議発表資料等、従来は入手しにくかった文献や、図書、画像データ等が検索できる。また、全体で六割以上が本文へリンクされている。

JAIROで検索できる収録コンテンツや各IRの詳細情報は、JAIROからリンクしている「IRDBコンテンツ分析システム」で確認できる。

●どんな検索ができるのか

例として、検索対象資料種別で「学術雑誌論文」、「紀要論文」、「テクニカルレポート」を選択し、検索対象機関を「一橋大学」と「日本貿易振興機構アジア経済研究所」に限定し、「Asia」

図1 JAIROトップページ



図2 JAIRO検索結果一覧画面



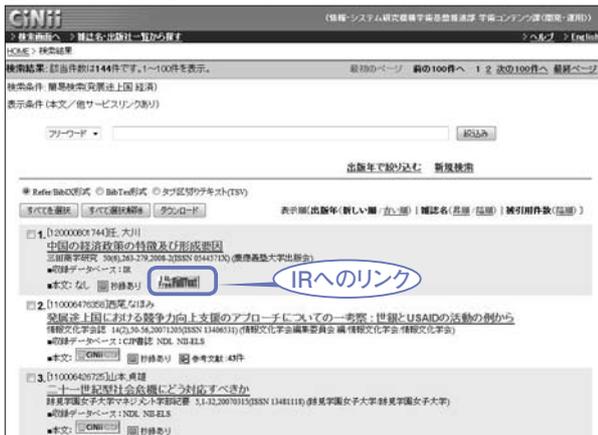
特集

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

図3 JAIRO検索結果詳細画面



図4 CiNiiからIRへのリンク



というキーワードで検索すると、検索結果は二五六件であった(図2)。デフォルトの表示件数は一〇件だが、最大二〇〇件まで変更可能である。また、検索結果の並び順を変更したり、選択した検索結果を保存したりすることも可能である。

タイトルの部分をクリックすると、詳細画面が表示され、抄録やキーワードなど、より詳細な情報を参照することができる(図3)。本文にアクセスするには「本文フルテキストへのリンク」をクリックする。また「資源識別子URI(アイテム表示画面へのリンク)」をクリックすると、そのコンテンツを公開しているIRの画面が表示される。さらに、著者名や雑誌名をクリック

● JAIROの今後の展開

JAIROのネーミングには、Gyrocompass(羅針盤)のように日本のIRの現在と未来を指し示したいというコンセプトが込められている。JAIROのサイトを訪れたら日本のIRのことがなんでもわかるポータルサイトとして、今後さらに利便性を高めていく予定である。

くとすると、イモズル式に関連コンテンツを探すことができる。

JAIROには簡易検索の他に詳細検索(検索項目の指定が可能)があり、それぞれ英語のインターフェイスもあるので、海外のユーザからも利用しやすいと思われる。

さらに、IRコンテンツのアクセスルートを多様化するために、NIIが提供する他のデータベースとIRのコンテンツのリンクを進めている。その一環で、二〇〇八年一〇月からOZ³⁾(サイニイ・国内最大級の論文データベース)とIRの連携を実現した(図4)。JAIROのメタデータのうち論文系のコンテンツ「学術雑誌論文」、「紀要論文」、「一般雑誌記事」がOZ³⁾から検索でき、検索結果からはIRにリンクが張られている。論文という切り口でコンテンツを探す場合は、OZ³⁾をぜひお試しください。この他にも、科学研究費成果公開サービスのKAKEENデータベースとIRコンテンツの連携等を計画している。

NIIの使命の一つは、大学等の学術機関と連携し、次世代学術コンテンツ基盤を共同で構築することである。各学術機関が蓄積・公開している有用かつ膨大な学術情報をさまざまな形でリンクし、付加価値サービスとして社会に還元することに寄与できれば幸いである。

報学研究所
(すぎた いづみ/国立情報学研究所)